

カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成方針】

幼児教育学科がめざす人材を育成するために、次の三つの柱を基本に教育課程を編成し、実施します。

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性を育む教養教育
 広く人間や社会、自然について学び、専門教育に備えるとともに、現代社会に必要なコミュニケーション技術を身につけ、健康で豊かな人間性を育みます。
- (2) 高度な専門性と実践力を有する保育者養成のための専門教育
 - ① 保育の本質や目的を理解します。
 - ② 保育の対象となる子どもや家庭について理解します。
 - ③ 保育の内容や方法を理解し、保育に必要な表現技術を身につけます。
 - ④ 保育実習や模擬保育を通して、保育内容の実践的理解と知識や技能の活用を図ります。
 - ⑤ 総合演習を通して、保育の課題を探究し、主体的に解決する力を育みます。
- (3) 豊かな感性と子どもへの深い愛情を育む全人的教育
 体験を通しての気づきを重視した授業内容及び学外における活動によって、保育者に必要な感受性・共感性と子どもへの深い愛情を育みます。

【教育課程実施方針(学修過程)】

1年次前期には、①子どもを理解するために必要な専門的知識を習得し、子どもの発達支援に必要な保育技術を身につけます。②また、子どもを取りまく社会状況や保育に関する制度等を把握します。③さらに、教養科目及び専門科目を通して、子どもを尊重することの大切さと感性の重要性を理解します。

1年次後期には、①5領域を基本とする保育内容の専門的知識を深め、保育を展開する技術を身につけます。②また、自らの保育実践をふりかえり改善につなげるPDCAサイクルを理解し、実践します。③さらに、社会におけるコミュニケーションの基本的技術と態度を確認します。

2年次前期には、①実践的な学びを通して、子どもに対する理解を深めるとともに、応答的に保育を展開する応用力を身につけます。②模擬保育を通して、5領域の総合展開をはかる指導方法を身につけます。③さらに、現代の保育課題について情報を収集し、考察を深める能力を身につけます。

2年次後期には、①これまでの保育に関する学びを有機的に関連づけながら、さらなる保育実践力について学びを深めます。②また、自らの保育実践を振り返り、子どもに対する深い愛情や豊かな感受性、共感性を確認し、自己課題を明確にします。③さらに、他者と協働しながら課題解決にむけて意欲的に取り組み続ける姿勢を身につけます。

【学修成果の評価】

各教科目の成績評価は、シラバスで示された評価方法により、学修成果別評価基準(ルーブリック)に沿って、厳正に行います。学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。

【教育課程実施方針(学修方法)】と【学修成果の評価方法】

(LO1) 知識・理解	【教育内容】 【教育方法・学修方法】 【学修成果の評価方法】	主として「保育の本質・目的」「保育の対象の理解」「教養」科目群により、保育者として必要な教養・専門的知識・理解の獲得を図る。 主として講義形式の授業により知識・理解の定着を図るが、可能な限りアクティブ・ラーニングを採り入れる。 筆記試験、小テスト、レポート。
(LO2) 技能	【教育内容】 【教育方法・学修方法】 【学修成果の評価方法】	主として「基礎演習」「保育の表現技術」「保育の内容・方法」科目群により、保育者として必要な専門的スキル・表現技能の獲得を図る。また、他者との適切なコミュニケーション技術も育む。 実技演習、成果発表の練習、制作により専門的スキル・表現技能の獲得を図る。 実技試験、作品、プレゼンテーション、レポート。
(LO3) 思考力・判断力 ・表現力	【教育内容】 【教育方法・学修方法】 【学修成果の評価方法】	①主として「保育実習」「保育の内容・方法」「総合演習」を通して保育内容の実践的理解と専門的知識・技能の活用を図る。 ②専門科目全体を通して保育者として必要な思考力・判断力・表現力を養成する。 グループワーク、ディスカッション、模擬保育、実習、実習指導を通して思考力・判断力・表現力を養成する。 レポート、試験、作品、プレゼンテーション、模擬保育・実践、実習日誌、実習先の評価。
(LO4) 関心・意欲・態度	【教育内容】 【教育方法・学修方法】 【学修成果の評価方法】	教育課程全体を通して、保育や子育てに対する関心・意欲を高め、主体的・対話的に学び続け成長するための力を養う。 課題レポート作成、模擬保育、実習、実習指導を通して主体的・対話的に学び続ける力を養う。 課題レポート、試験、受講態度、模擬保育・実践、実習日誌、実習先の評価。
(LO5) 人間性・社会性	【教育内容】 【教育方法・学修方法】 【学修成果の評価方法】	①体験を重視した教育課程や学外における活動によって、他者との協働性、保育者としての責任感・使命感を育む。 ②子どもへの深い愛情と豊かな感受性・共感性を養成する。 グループワーク、協働作業による制作、模擬保育の実践、学外における活動を通して、協働性、深い愛情、豊かな感受性・共感性を育む。 作品、プレゼンテーション、模擬保育・実践。